

児童・生徒の学力等の傾向と課題を分析

全国学力・学習調査の結果概要

「平成25年度 全国学力・学習状況調査」が、4月に市内小・中学校17校で実施されました。市教育委員会では、今後の教育施策や教育活動に役立てるため、児童・生徒の学力・学習状況を次のとおり分析しましたので報告します。



各教科の学力調査結果および学習状況調査結果から、市内小・中学校においては次のような傾向があることが分かりました。

教科の状況

基礎的な知識は理解するも記述式問題に課題

【全体的な傾向と課題】
各教科の正答率を合計すると中学校の数学が全国とほぼ同じでしたが、他はすべて小・中学校ともに全国や長野県の合計より高いという結果になりました。
小・中学校ともに、基礎的な知識はおおむね理解できている

と思われますが、自分の考えをまとめて具体的に分かりやすく書いたり、解答の理由を文章で記述したりすることに課題があると思われます。

【小学校の傾向と課題】

国語

基礎的な言語についての知識・理解はおおむね定着していると思われ、目的や意図に応じて分かりやすく書くことや、文と文のつながりを考えながら書くことなどに課題があると思われ。

算数

基礎的な計算をする「数と計

算」の領域はおおむね理解できていると思われ。一方、実験結果をもとにしながら解答の理由を記述するなど、数学的な考え方をさらに伸ばす必要があると思われ。

【中学校の傾向と課題】

国語

文脈に即して漢字や語句を使う言語についての知識・理解はおおむね理解できています。しかし、文の接続に注意しながら伝えたい事柄を明確にして書くことや、発言内容を整理しながら

話し合いの方向をとらえて話すことなどに課題が見られます。

数学

基礎的な計算を含む「数と式」の領域はおおむね理解できています。しかし、関数や確率についての知識・理解に課題があると思われ。また、資料から読み取れることを数学的に記述して説明するなど、数学的な見方や考え方に課題が見られ、小学校よりも無解答率が高くなる傾向があります。

生活環境や学習状況

前回調査に続き、規則正しい生活や達成感などに良い傾向

【全体的な傾向と課題】

小・中学校ともに幾つかの項目で、全国や長野県と同じかまたは良い傾向が見られます。中でも朝食を毎日食べている「もの」を最後までやりとげうれしかったことがある「学校で友達と会うのは楽しい」「学校の規則を守っている」などは、

平成21・23年度の調査結果でも見られた良い傾向であると思われ。

【小学校の傾向と課題】

生活面では、朝食を毎日食べることや、起床や就寝の時間が一定であるなど、基本的な生活習慣が定着していると思われ。しかし、学習面では「家で、自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童の割合は昨年より上昇しているものの、家で学校の授業の予習や復習をしている割合は低く、改善が必要です。

【中学校の傾向と課題】

朝食を毎日食べたり、家族と夕食を一緒に食べたりする割合は高く、今後も大切にしていきたいことです。また、基本的な生活習慣も定着していると思われます。学習面では、家で授業の予習や復習をする割合は低く、さらに改善が必要です。

次ページでは比較的正答率が高い傾向にある子どもの生活の様子を示しています。

